

ゆうやけ第3子どもクラブ 放課後等デイサービスガイドライン評価結果分析

2025年1月22日

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 13人（13人中）
- ・職員による評価 8人（8人中）

○実施期間

- ・2025年1月6日～17日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」の項目に、「ゆうやけ以上に安心できる放課後デイはない」という意見もある。虐待の心配なく安心して子どもを通わせることができることが評価されている。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」の項目に、「子どもをよく見て、友だちや職員との関わり、自分の要求の伝え方を大切にしたい計画が作成されている」という意見がある。子どもの行動の内側に込められている、気持ちの変化や育ちも踏まえて計画書を作成していることが評価されている。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」の項目に、「夏は、保冷材を首に巻いて散歩したり、バスで水遊びのできる公園に連れていったりしている」という意見がある。夏休み活動の屋外活動では特に、子どもの体調などに細かに対応していることが評価されている。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目に、「母子ともにありがたい場所だ」という意見もある。子どもが楽しみにできるような活動を、子どもの状況に応じながら創り出していることが評価されている。
- ・「活動に満足しているか」の項目に、「散歩、おやつ作り、フォークダンス、バスに乗っての遠出の水遊びなど、思う存分楽しめている」という意見がある。子どもの状況に応じながら、屋外の活動も含めて、さまざまな活動を用意していることが評価されている。
- ・「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」の項目に、「便秘予防・熱中症・カゼ対策のための水分補給や、服の調整など、しっかり対応してもらっている」という意見もある。子どもの個別の事情にもていねいに応じていることが評価されている。
- ・「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」の項目に、「学校や家庭での様子や課題を話し（たとき）、長きにわたる経験

を踏まえて相談に乗ってもらっている」という意見もある。保護者の悩みをていねいに聞き取りながら、これまでの経験も踏まえて、子どもの育ちの課題や見通しについても語っていることが評価されている。

- ・「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつくられているか」の項目に、「迎えるとき担当職員から、体調や様子を聞き、保護者会時には、写真を見ながら様子を聞ける」という意見もある。子どもを担当した職員から毎日、子どもの様子を伝えたり、保護者会では、画像を映写しながら子どもたちの様子を報告したりしていることが評価されている。
- ・「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」の項目に、「子どもの活動、保護者の活動、父母会活動、親子行事が満載。非常勤職員や友だちの紹介もある」という意見もある。活動中の子どもの様子や、保護者・職員の声をわかりやすく伝えていることが評価されている。
- ・「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」の項目に、「施設見学会は、バスの運行、バザーは、提供品の管理・運搬、チラシ作り、保育などしてもらっている」という意見もある。父母会などの、保護者の活動に協力していることが評価されている。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか」の項目に、「虐待について研修会で、防止の視点を学んでいる」という意見もある。子どもの行動の内側に込められている、その子の願いを汲み取るための事例検討などと結びながら、虐待を防止する視点を引き続き学んでいきたい。
- ・「子どもの活動の記録を書いているか」の項目に、「子どもの行動の意味も含めて、新しい発見を書くようにしている」という意見もある。子どもの行動の内側に、思いがけない新しい意味を発見して、それを記録するように引き続き努めたい。
- ・「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」の項目に、「大人が反省できることが、子どもを理解することにつながると思う」という意見もある。職員の成長なくして、子どもを深くとらえることはできないということを踏まえて、自己研さんに努めるように引き続き呼びかけていきたい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」という項目は、「はい」が5、「いいえ」が3ある。育児など、家庭の事情などで難しい場合もあるが、外部の学習会への参加を引き続き呼びかけていきたい。
- ・「保護者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか」という項目に、「保護者がそう言わざるをえない心情も含めて理解したい」という意見もある。保護者の言葉を表面的に理解するのではなくて、言葉に込められた気持ちも含めて汲み取るように引き続き努めたい。
- ・「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくっているか」という項目に、「コロナが収まってきたので、父母会が活発に動けるように協力したい」という意見もある。父母会など保護者の活動が活発になるように、保護

者の自主性を尊重しながら、引き続き協力していきたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもを安心して通わせることができる事業所であり続けるように、研修や事例検討に引き続き努めたい。
- ・子どもそれぞれの事情に細やかに対応しながら、どの子にとっても楽しく、豊かな育ちが実現できる活動を創り出せるように引き続き努めたい。
- ・保護者の言葉の表面的な理解に留まらずに、言葉に託された願いや思いを汲み取って、引き続き保護者と関わりたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもの、問題にも見える行動の内側には実は、その子の本当の願いが込められているという、子どもを理解する基本を絶えず共有しながら活動したり、話し合ったり、記録を書いたり、保護者に関わったりしていきたい。
- ・外部の学習会は、思いがけない気づきや学びがありうるので、参加を引き続き呼びかけていきたい。
- ・父母会など、保護者の活動には、保護者の自主性を生かすことに留意しながら、引き続き積極的に協力していきたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2025年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2025年1月31日より）